

地質ニュース

特集 NO. 6 1955-11

地質調査所

地質図幅

ダムを作るときに基礎的な地質調査が充分行われなかつたために、工事の途中で設計や計画の変更がおきて多額な費用を浪費せざるを得なくなつたり、あるいはまた単純な推定から鉱物資源が豊富に埋存されているものと予想して、そこへ投資しようとした寸前に地質調査を行ったところが少量しかないことがわかり、無駄をせずに済んだというような例を時々耳にする。

これらの例は、国土を有効適切かつ合理的に開発利用するためには、その土地がどんな岩石や地層からできていて、どんな地下資源が埋もれているか、すなわち地質状態を知ることが大切であることを示している。

最近は国土総合開発・海底トンネル・電源開発・工業用水・治山治水・海底地下資源・ウラン・チタン・磁硫

鉄鉱など、地質に関する問題が随時随所にもちあがっているが、日本の全域にわたって地質や地下資源の基礎資料を整えておくことが重要である。

地質図幅調査事業はこの目的のために、地質調査所が



調査用具類

創設以来続けてきている基本的事業であつてそれは全国を経緯線によつて一定の区画に分け（現在は建設省地理調査所発行の5万分の1地形図を1図幅の単位としている）、各区画の地質図を逐次作成・出版し、やがて日本全土にわたる地質図を完成しようとするもの

である。

このような事業がいかに進められそして現在どのような状態にあるかを順を追つて述べてみよう。